



PISA2009 から考えるこれからの教育

～日本・韓国・フィンランド 三カ国比較の視点から～

2010年12月に公開されたPISA2009の結果は、あらためてこれまで実際に行われてきた教育を見つめなおし、今後の教育の方向性を議論する大きな契機となるものです。とかく順位に注目が集まり、上海や韓国の躍進に対する驚きと同時に、日本の結果（順位）に小さな安堵感がもたらされた印象がありますが、本当に重要なのは、順位ではない結果のしっかりとした分析と、それらから今後の教育のあるべき姿を導き出すことにあるのではないのでしょうか。

本セミナーは日本・韓国・フィンランドの三カ国におけるPISA2009結果の受け止められ方、及びこれまでのPISA調査がそれぞれの国に与えた影響を比較することで、これからの教育の姿を描く端緒を得ようという試みです。すでに教育に深く関わっている方々から、これから教育に関わることを志す方々まで、幅広い方々にご参加いただき、活発な議論の中から、教育の未来へと繋がるヒントを数多く見つけ出したいと考えています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時: 2011年2月5日(土) 14:00～17:00

会場: 日本教育大学院大学 2階大教室

<地図> URL: <http://www.kyoiku-u.jp/information/access.html>

■主な内容

14:00-14:15 PISA2009 問題作成の背景と意図(北川 達夫)

14:15-14:40 国別分析:日本(花田 修一)

14:40-15:05 国別分析:韓国(嚴 錫仁)

15:05-15:30 国別分析:フィンランド(北川 達夫)

15:45-17:00 パネルディスカッション・リフレクション

■スピーカー

花田 修一 (日本教育大学院大学 学校教育研究科長・教授)

福岡学芸大学卒。福岡市公立中教諭、お茶の水女子大学附属中高教諭、同大学文教育学部講師等を経て、日本教育大学院大学教授。2009年より研究科長。日本国語教育学会監事。

嚴 錫仁 (八洲学園大学 准教授)

韓国高麗大学哲学科卒。韓国精神文化研究院・韓国学大学院修了、筑波大学大学院哲学・思想学研究科を修了し、博士(文学)取得。成均館大学研究教授等を経て現職。

北川 達夫 (日本教育大学院大学 客員教授、PISA2009 読解力専門委員)

早稲田大学法学部卒業後、外務省入省。在フィンランド日本国大使館在勤(1991～1998年)。帰朝後に退官、現在は国際的な教材作家として日本とフィンランドを始め、旧中・東欧圏の教科書・教材制作に携わる。2006年より日本教育大学院大学客員教授。

■コーディネーター

熊平 美香 (日本教育大学院大学 学長)

□主催

日本教育大学院大学

□共催

(株)栄光、(株)エデュケーショナルネットワーク

■お申込方法

日本教育大学院大学ホームページ (<http://www.kyoiku-u.jp/>) のお申込フォームもしくはお電話(03-3237-1811)にてお申込下さい。

■参加費用

無料

■申込締切日

2011年2月2日(水)

■定員

100名

■お問合せ先

日本教育大学院大学事務局(担当:大槻・島野)

〒102-0084 東京都千代田区二番町8-2 TEL: 03-3237-1811